

表2 震災後1カ月間に生じた受診状況と服薬状況
(アレルギー患者 N=472)

	度数 (人)	%
1カ月以内の受診あり (受診回数の変化)	263	59.6
震災前と同程度	190	74.5
受診回数減少	16	6.3
増加	18	7.1
巡回診療	31	12.2
1カ月以内の受診なし (非受診の理由)	178	40.4
かかりつけ医が被災したため	67	42.1
自分が避難所にきたため	10	6.3
調子が良い	50	31.4
その他	32	20.1
定時薬の処方あり (処方量の変化)	315	73.6
震災前と同程度	247	82.1
処方量減少	23	7.6
処方量増加	22	7.3
その他	9	3.0
定時薬の処方なし (処方なしの理由)	113	26.4
特に症状無し	46	50.5
医療機関を受診していないから	26	28.6
その他	19	20.9

注 無回答を除いた。

患者472人、がん患者301人、身体障害者手帳所持者182人、療育手帳所持者45人から回答を得た。透析患者の回答は2件のみであったため本研究の報告対象からは除外した。

(1) 難病患者

難病患者56人から回答が得られた(表1)。震災後1カ月の間に、通院先に変化が生じたのは、9人であり、その理由は「かかりつけ医が被災したため(6人)」が最も多かった。震災後、8割近くが症状を「変わらない(41人, 78.8%)」と評価した一方、「悪くなった(8人, 15.4%)」という回答もあった。「悪くなった」と回答した8人の悪化内容は「震災前からある症状が悪化した」が5人、「別の症状が加わった」が2人であった。

(2) アレルギー患者

定期的に医療機関を受診しているアレルギー患者472人のうち、263人(59.6%)が、震災後1カ月以内にかかりつけ医(新たな医師を含

表3 震災後1カ月の治療計画の変化
(がん患者 N=301)

	度数 (人)	%
治療計画に変更なし	283	94.0
治療計画に変更あり	18	6.0
変更した治療法 ²⁾		
緩和ケア	-	-
抗がん剤治療	3	17.6
放射線治療	3	17.6
手術	2	11.8
その他	10	58.8
変更状況		
治療中断	1	5.9
開始延期	6	35.3
治療遅れ	4	23.5
その他	6	35.3
変更理由 ³⁾		
医療機関の事情(閉院、休院など)	8	53.3
医療機関までの交通機関がなかった	1	6.7
家族や家屋の対応に追われるなど、治療にかけられる時間がなかった	3	20.0
金銭面が心配で治療を控えていた	-	-
その他	4	26.7
調査時点の治療状況 ⁴⁾		
治療を再開している	6	37.5
元の医療機関に戻って治療している	12	75.0
震災前とは違う医療機関で治療している	1	6.3
治療が中断・延期のまま	1	6.3

注 1) 無回答を除いた。
2) 多重回答。回答者17人中の%。
3) 多重回答。回答者15人中の%。
4) 多重回答。回答者16人中の%。

む)を受診していた(表2)。非受診者178人に受診しなかった理由を尋ねたところ「かかりつけ医が被災したため(67人, 42.1%)」が最も多かった。受診者に、被災後の受診状況を尋ねた結果、190人(74.5%)が震災前と同程度の回数で受診を継続していた一方、16人(6.3%)は受診回数が減少したと回答した。定時薬を処方されている被災地住民のうち、約8割が「震災前と同程度処方されていた」と回答したが、震災前より「増加した(7.3%)」「減少した(7.6%)」という回答もあった。

(3) がん患者

がん患者301人から回答が得られた。表には示していないが、がんの種類について多重回答で尋ねたところ、最も多かったのは乳がん63人(20.9%)で、前立腺がん57人(18.9%)、胃がん42人(14.0%)、大腸がん41人(13.6%)、子宮頸がん・体がん25人(8.3%)と続いた。

また、震災前の治療状況について多重回答で尋ねた結果、有効回答297人のうち、「外来通院」が173人（58.2%）、「特に治療をしていない」が47人（15.8%）であった。震災前の治療内容（多重回答、有効回答250人）で多かったのは、「手術後3カ月以上経過」が71人（28.4%）、「抗がん剤治療」67人（26.8%）であった。

表4 震災前後の障害の変化と生活の自立度
(身体障害者手帳所持者 N=182)

	度数 (人)	%
震災前と比べた障害の変化		
悪化	27	14.8
変化なし	153	84.1
改善	2	1.1
生活の自立度		
介助が増えた	10	5.6
変化なし	166	93.8
介助が減った	1	0.6
症状の変化		
褥瘡		
ない	175	97.2
できた	1	0.6
変わらない	4	2.2
関節の動き		
問題ない	84	46.4
悪くなった	27	14.9
変わらない	69	38.1
よくなった	1	0.6
筋肉の力		
問題ない	72	39.8
弱くなった	42	23.2
変わらない	67	37.0
こわばり		
問題ない	92	51.4
強くなった	19	10.6
変わらない	67	37.4
弱くなった	1	0.6
目		
見えづらくなった	66	36.3
変わらない	116	63.7
耳		
聞こえづらくなった	44	24.2
変わらない	138	75.8
痛み		
強くなった	15	8.3
痛い箇所が増えた	21	11.6
変わらない	143	79.0
軽くなった	2	1.1
てんかん発作		
元々ない	172	95.6
起こるようになった	2	1.1
増えた	1	0.6
減った	2	1.1
震災後なし	3	1.7
リハビリの実施状況		
前も今もあり	23	13.0
前も今もなし	143	80.8
前あり今なし	9	5.1
今あり前なし	2	1.1

注 無回答を除いた。

がん患者の治療計画の変化を表3に示す。がん患者301人のうち、94.0%は震災後1カ月間に計画が変更になった治療法はなかったと回答した。しかしながら18人は、治療計画に「変更あり」となっており、治療開始時期の延期、治療の遅れなどが生じていた。変更理由のうち最も多かったのは、閉院や休院といった医療機関の事情（回答者15人中8人）であった。3人は家族や家屋の対応に追われるなど、治療にかかる時間がなかったと回答した。震災から半年以上経過した調査時点でも1人は「治療が中断・延期のまま」と回答した。

(4) 身体障害者手帳所持者

身体障害者手帳所持者182人から回答が得られた(表4)。震災前後の障害について、「変化なし」という回答が84.1%を占めたが、27人(14.8%)は症状が悪化していた。生活の自立度について尋ねたところ、10人(5.6%)は介助が増えたと回答した。

表5 震災前後の症状と障害の変化
(療育手帳所持者 N=45)

	増加/ 悪化	変化 なし	減少/ 改善	不明	元々 ない
自傷	1 (2.2)	7 (15.6)	- (-)	1 (2.2)	36 (80.0)
他害	1 (2.2)	6 (13.3)	1 (2.2)	2 (4.4)	35 (77.8)
こだわり	6 (13.3)	18 (40.0)	- (-)	1 (2.2)	20 (44.4)
器物破損	- (-)	6 (13.3)	- (-)	3 (6.7)	36 (80.0)
多動	1 (2.2)	10 (22.2)	1 (2.2)	3 (6.7)	30 (66.7)
パニックの回数	4 (8.9)	7 (15.6)	1 (2.2)	2 (4.4)	31 (68.9)
パニック状態の 変化	3 (6.8)	7 (15.9)	1 (2.3)	2 (4.5)	31 (70.5)

	度数 (人)	%
震災前との過ごし方の変化		
1人であることが多くなった	5	11.6
支援者といることが多くなった	2	4.7
うろろろすることが多くなった	4	9.3
変わらない	31	72.1
わからない	1	2.3

注 無回答を除いた。

(5) 療育手帳所持者

約9割が震災前と同程度の症状・障害であったが、45人中6人(13.3%)は「こだわりが増えた」、4人(8.9%)は「パニックの回数が増えた」と回答した(表5)。また、45人中5人(11.6%)は、震災前よりも1人であることが増えていた。

Ⅳ 考 察

本研究では、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県沿岸地域に居住する難病患者、アレルギー患者、がん患者、身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者の症状や障害、医療資源の利用実態について調査した。

難病患者や障害のある住民のうち約1割から2割で症状や障害の悪化が報告された。さらに、本研究の結果からは、患者側の被災のみならず医療の担い手側の被災が受診の阻害要因となったことが確認された。難病患者では56人中9人が震災後1カ月の間に通院先を変えており、そのうち6人が「かかりつけ医の被災」を理由に挙げていた。アレルギー患者でも、4割強が「かかりつけ医の被災」によって、医療機関を受診していないことが示された。

岩手県の被災地では、94の病院および診療所のうち、3施設が全壊、59施設が一部損壊している⁷⁾。本研究の対象地域の1つである大槌町では、町の中心部(沿岸)に医療機関が集中していたため、全ての医療施設が津波によって全壊した⁸⁾。岩手県沿岸部は、震災以前から医療過疎地であったが、東日本大震災により、限られた医療機関が壊滅的な被害を受けたことで医療へのアクセスが困難になったことが考えられる。

他方、被災によって治療計画の変更を余儀なくされたがん患者は301人中18人(6.0%)にとどまった。本研究は地域住民を対象としており、本研究に参加したがん患者の7割以上が震災当時、「外来通院中」または「特に治療をしていない」状況であったことから、治療への影響が限定的であった可能性がある。しかしながら、

本来治療の変更が必要であったにもかかわらず、医師に治療計画を相談する機会を逸していたり、治療計画の変更せざるを得なかった患者がいたことも明らかとなった。

身体障害者手帳所持者では、約1割が震災前に比べ障害の度合いが悪化していた。一部の療育手帳所持者では、「こだわり」や「パニックの回数」が増悪していた。障害者においては、慣れない環境下で十分な支援が受けられず、症状や生活の自立度の悪化をきたした可能性が考えられる。岩手県では、障害者福祉施設のうち9施設が全壊し、56施設が一部損壊した⁷⁾。津波被害を免れた福祉施設も避難所として使用され⁹⁾、障害者の支援場所は限られていた。

さらに、災害救助法では、支援に携わる職種として医師や看護師らが挙げられているが、作業療法士やソーシャルワーカー等の専門職は含まれていないこと⁹⁾、大規模災害後は、心のケアなどの精神保健福祉に関する支援活動が行われる一方で、障害保健福祉領域の支援活動が不十分になる可能性がある¹⁰⁾といった背景が、障害者の症状や自立度の悪化の一因とも考えられる。今後の災害に備え、医療面だけでなく福祉的な観点からの支援策を検討しておくことが重要である。

本研究は、地域の健診に参加できた患者や障害者を対象としたことから、結果の一般化には限界がある。頻回あるいは高度な医療行為が必要な患者や障害者においては、被災地以外の場所へ避難している可能性が高い。また、被災地域では道路や電車等の公共交通機関にも被害が及んでおり、重篤な疾患や障害のある住民が健診会場に足を運ぶのは容易でない。そのため、調査に参加できた住民は比較的体機能が高い集団に限られている。また、本研究では障害や疾病の種類や程度についての情報を収集できていない。そのため重症度や症状の特性と震災後の悪化については明らかにできなかった。さらに本報告では、震災前のデータとの比較や、対照地域との比較ができなかった。したがって、症状や障害、医療資源の利用状況が震災の影響によって変化した結果であるのかについては検

討できていない。

以上のような限界はあるものの、地域生活へと移行している昨今、疾患あるいは障害を持つ住民に対する災害時の支援策を検討する上で、本報告は基礎資料になるものと考えらる。

V 結 語

東日本大震災後、難病患者、アレルギー患者の受診に最も影響を与えていたのは、かかりつけ医の被災であった。身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者においては、震災前に比べ震災後に症状や生活の自立度の一部が悪化した可能性が示唆された。

謝辞

本研究は、厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「東日本大震災被災者の健康状態等に関する研究」、厚生労働科学研究費補助金（健康・安全危機管理対策総合研究事業）「岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究」の助成を受けた。山田町、陸前高田市、大槌町、釜石市の保健行政の関係各位から、多大なご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。被災地での調査にあたり、ご尽力いただいた皆様に感謝します。

文 献

- 1) 厚生労働省. 平成23年人口動態統計（確定数）の概況. 人口動態統計からみた東日本大震災による死亡の状況について. (http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei11/dl/00_all.pdf) 2013.11.
- 2) 警察庁緊急災害警備本部. 平成23年東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置. (<http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/higaijokyo.pdf>) 2013.5.
- 3) 内閣府. 平成24年版障害者白書. (<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h24hakusho/zenbun/pdf/>) 2013.10.
- 4) 金谷泰宏, 橋とも子, 奥田博子, 他. 今後の難病対策のあり方について－地震災害時における難病患者の支援体制の構築. 保健医療科学 2011; 60(2): 112-7.
- 5) 北川慶子, 宮本英揮, 橋本芳. 介護保険施設の自然災害による被災と防災に関する研究. 老年社会科学 2010; 32(3): 328-37.
- 6) Tomio J, Sato H, Mizumura H. Disparity in disaster preparedness among rheumatoid arthritis patients with various general health, functional, and disability conditions. Environ Health Prev Med 2012; 17(4): 322-31.
- 7) 厚生労働省医政局. 東日本大震災における被害状況（医療機関・社会福祉施設）. (<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001yx1j-att/2r9852000001yy9a.pdf>) 2013.10.
- 8) 村嶋幸代, 鈴木るり子, 岡本玲子編著. 大槌町保健師による全戸家庭訪問と被災地復興－東日本大震災後の健康調査から見えてきたこと. 東京: 明石書店. 2012.
- 9) 高木理彰. 東日本大震災に際して－地震大津波被災地気仙沼でのリハビリテーション支援経験. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2012; 49(1): 37-45.
- 10) 井上雅彦, 岡村章司, 大久保賢一. 東日本大震災の障がい児・者支援の状況と課題 岩手沿岸地域における調査・支援から. 行動分析学研究 2012; 27(1): 5-8.

RESEARCH

Open Access



Oral health-related quality of life and related factors among residents in a disaster area of the Great East Japan Earthquake and giant tsunami

Mitsuo Kishi^{1*}, Fumie Aizawa¹, Miki Matsui¹, Yukari Yokoyama², Akiko Abe¹, Kentaro Minami¹, Ruriko Suzuki³, Hiroyuki Miura⁴, Kiyomi Sakata⁵ and Akira Ogawa⁶

Abstract

Background: Oral health is one of the most important issues for disaster survivors. The aim of this study was to determine post-disaster distribution of oral health-related quality of life (OHRQoL) and related factors in survivors of the Great East Japan Earthquake and Tsunami.

Methods: Questionnaires to assess OHRQoL, psychological distress, disaster-related experiences, and current systemic-health and economic conditions were sent to survivors over 18 years of age living in Otsuchi, one of the most severely damaged municipalities. OHRQoL and psychological distress were assessed using the General Oral Health Assessment Index (GOHAI) and the Kessler Psychological Distress Scale (K6), Japanese version, respectively. Among 11,411 residents, 1,987 returned the questionnaire (response rate, 17.4 %) and received an oral examination to determine number of present teeth, dental caries status, and tooth-mobility grade, and to assess periodontal health using the Community Periodontal Index. Relationships between GOHAI and related factors were examined by nonparametric bivariate and multinomial logistic regression analyses using GOHAI cutoff points at the 25th and 50th national standard percentiles.

Results: GOHAI scores were significantly lower in the 50–69-age group compared with other age groups in this study and compared with the national standard score. In bivariate analyses, all factors assessed in this study (i.e., sex, age, evacuation from home, interruption of dental treatment, lost or fractured dentures, self-rated systemic health, serious psychological distress (SPD), economic status, number of teeth, having decayed teeth, CPI code, and tooth mobility) were significantly associated with OHRQoL. Subsequent multinomial logistic regression analyses revealed that participants of upper-middle age, who had received dental treatment before the disaster, who had lost or fractured dentures, and who had clinical oral health problems were likely to show low levels of OHRQoL. In addition, perceived systemic health and SPD were also related with OHRQoL.

Conclusions: OHRQoL of disaster survivors was associated with oral problems stemming from the disaster in addition to factors related to OHRQoL in ordinary times such as clinical oral status and perceived systemic health. Furthermore, SPD was also associated with OHRQoL, which suggests the disaster's great negative impact on both oral and mental health conditions.

* Correspondence: mkishi@iwate-med.ac.jp

¹Division of Preventive Dentistry, Department of Oral Medicine, School of Dentistry Iwate Medical University, 1-3-27 Chuo-dori, Morioka, Iwate 020-8505, Japan

Full list of author information is available at the end of the article



© 2015 Kishi et al. **Open Access** This article is distributed under the terms of the Creative Commons Attribution 4.0 International License (<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>), which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided you give appropriate credit to the original author(s) and the source, provide a link to the Creative Commons license, and indicate if changes were made. The Creative Commons Public Domain Dedication waiver (<http://creativecommons.org/publicdomain/zero/1.0/>) applies to the data made available in this article, unless otherwise stated.

Background

On March 11, 2011, a huge earthquake (the Great East Japan Earthquake) with a measured magnitude of 9.0 was followed by a giant tsunami, which struck the northeastern part of Japan facing the Pacific Ocean. This disaster resulted in catastrophic damage to numerous towns and cities. Many administrative and medical functions in the affected communities were lost and most survivors were forced to live in shelters or temporary accommodations for long periods of time [1].

Oral health is important for eating, communication, and the comfort of survivors. However, water and food supplies, privacy for grooming, oral health care goods as well as other sanitary conditions were insufficient after the disaster [2]. Such substandard living conditions following the disaster likely reduced the oral health status of almost everyone. Therefore, it is essential to identify victim populations with poor oral health-related quality of life (OHR-QoL) and provide them with adequate supports.

Previous research in ordinary times presented the risk factors for poor OHRQoL as objectively assessed oral conditions including “low number of teeth” [3–8] and “high number of decayed teeth” [5–7]. Other than oral-related issues, significant factors are reported to include age [6], female sex [7], certain markers of social status such as “low income” [6] and “low education levels” [3, 8], and low self-rating of general health [3, 5, 6, 8]. In addition to these factors, many survivors had unusual experiences affecting oral health such as lost or fractured dentures and interrupted dental treatment due to loss of their home dentists. Furthermore, psychological distress might be related to OHRQoL of disaster survivors because OHRQoL includes psychosocial aspects and psychological problems, both of which were prevalent in survivors of the Great East Japan Earthquake and tsunami [9].

However, at present, there are very few studies on post-disaster surveys of oral health, especially OHRQoL, using measurable scales [2, 10–12]. Therefore, 9 months after the Great East Japan Earthquake and tsunami, we conducted a questionnaire survey that included an OHRQoL measure, a psychological distress measure, and questions on disaster-related experiences as well as clinical surveys of survivors. The primary aim of the present study was to assess OHRQoL among survivors of the disaster. The secondary aim was to examine factors related to OHRQoL in disaster-affected areas.

Methods

Characteristics of the survey area

This survey was carried out in the town of Otsuchi, located on the Pacific Coast of Iwate Prefecture, which had suffered some of the most severe damage from the Great East Japan Earthquake and tsunami. Before the disaster, the main industries in Otsuchi were fisheries

and fishery-related businesses such as processing and services. On March 11, 2011, the tsunami inundated primary administration, commerce, sightseeing, and inhabitable areas that were located primarily along the coastline. Because dental facilities were exclusively located in this area, all six dental offices in the town were destroyed. At the time of our survey, a temporary dental clinic had been established to provide dental services. The 2010 pre-disaster population of Otsuchi was 15,300. According to administrative records, the total number of dead and missing in the disaster was 1,311 (8.6 % of population).

Study design and population

This was a cross-sectional study using questionnaire and clinical surveys performed in December 2011, 9 months after the disaster. At the time of the survey, we were uncertain of the post-disaster population due to various factors, including unconfirmed numbers of dead, missing, or relocated residents; therefore, we sent out notices of our health survey and questionnaire to all 11,411 residents aged 18 years or older based on the provisional figures available. Our survey was performed as part of a comprehensive health survey of survivors of the Great East Japan Earthquake and tsunami [9]. Furthermore, the comprehensive survey was done simultaneously with a health check-up examination that the town government performed as a public health service. Among 2,172 residents who received the town health check-up, 2,085 agreed to participate in the comprehensive survey. Thereafter, 74 declined to participate in the oral health examination. Among 2,001 participants in the oral health examination, we excluded 13 whose General Oral Health Index (GOHAI) score was missing. Finally, 1,987 participants (764 men and 1,223 women; mean age \pm SD, 62.9 ± 14.1 and 60.4 ± 14.5 years, respectively) were the subjects in this study. Because Otsuchi consists of several smaller and geographically separate communities, to facilitate easy access, 11 health check-up venues were set up during the 15-day clinical survey period (December 8–22, 2011). At each venue's health check-up reception area, we obtained participants' informed consent to participate in our study.

The study protocol was approved by the Medical Ethics Committee of Iwate Medical University (H23-69) and conducted in accordance with the guidelines of the Declaration of Helsinki.

Data collection

Self-reported data

We sent out a questionnaire and notice of our health survey to residents, and requested that they complete the questionnaire and bring it to their health check-up examination, at which time a trained interviewer was available to obtain more complete answers to any insufficient questionnaire responses.

We assessed OHRQoL using the Japanese version of the GOHAI [3, 4], which was originally developed for the elderly and called the Geriatric Oral Health Assessment Index. More recently, it is also known as the General Oral Health Assessment Index to reflect its applicability to younger age groups [5, 6, 13]. The GOHAI consists of 12 items measuring the degree of limitation in three domains: “physical function,” “pain and discomfort,” and “psycho-social function.” [14] The summary score of all 12 items ranges from 12 to 60 and represents an individual’s OHR-QoL, with high summary scores indicating good OHRQoL.

We assessed psychological distress using the Kessler Psychological Distress Scale (K6), Japanese version [15, 16]. This questionnaire consists of six items measuring mental health on a 5-point Likert scale and asks respondents how often during the preceding 30 days they had felt (1) so sad that nothing could cheer them up; (2) nervous; (3) restless or fidgety; (4) hopeless; (5) worthless; and (6) that everything was an effort. Each item is scaled from 0 (none of the time) to 4 (all of the time). The total score of psychological distress is assessed by totaling the six item scores and ranges from 0 to 24. Contrary to the GOHAI, a high K6 score would indicate a low level of mental health (psychological distress). Based on previous studies, respondents with serious psychological distress (SPD) were identified by a score of 13 or higher [9, 15–21].

We created a questionnaire to obtain data on residents’ disaster-related experiences as well as their current systemic health and economic condition. In the questionnaire, respondents provided their current and pre-disaster residential addresses. If these differed, we categorized these respondents as having been evacuated from their home. Next, respondents were asked about interruption in dental treatment that they were receiving before the disaster. Answer choices were (1) “no dental treatment was being received before the disaster,” (2) “treatment was not interrupted,” (3) “treatment was interrupted and has resumed at the original dental clinic,” (4) “treatment was interrupted and has resumed at another dental clinic,” and (5) “dental care remains interrupted.” However, because we found no difference in GOHAI scores between choices (4), (5), and (6), we recategorized the choices for later analysis as follows: (1) “no dental treatment was being received before the disaster,” (2) “treatment was not interrupted,” and (3) “treatment was interrupted.” Next, we assessed the disaster’s impact on denture use according to the following criteria: (1) “did not wear dentures,” (2) “no disaster-related damage to dentures,” and (3) “disaster-related lost or fractured dentures.” Furthermore, we asked respondents for their self-rated systemic-health condition using four choices (very poor, poor, fair, or good) and current economic status also using four choices (very severe, severe, slightly severe, or normal). Based on their answers, we divided participants into three groups for self-

rated systemic health (poor, fair or good) and two groups for economic status (severe, normal) in our analyses.

Clinical data

Oral examinations were performed by 4–6 skilled dentists per an examination day from Iwate Medical University School of Dentistry. All of them participated in preliminary meetings for this survey and received training for consistency in the assessments. Dental caries status was assessed according to the World Health Organization (WHO) method. In brief, examiners inspected each participant’s tooth under artificial lighting and recorded each tooth as sound, decayed, filled, or missing. Some modifications were made to the WHO method as follows: (1) a tooth with treated or untreated root caries was recorded as a filled or decayed tooth, and (2) a remaining root without a crown was counted as a present tooth. Periodontal conditions were assessed using the Community Periodontal Index (CPI) whose procedures and diagnostic criteria were also recommended by the WHO [22]. Briefly, using a special probe, examiners assessed three indicators of periodontal status: gingival bleeding, calculus, and periodontal pockets. Participants were divided by five codes of index-tooth severity (i.e., code 0 = healthy; code 1 = bleeding observed after probing the gingival sulcus; code 2 = calculus detected during probing; code 3 = periodontal pocket (4–5 mm); code 4 = periodontal pocket (6 mm or deeper). In addition, tooth-mobility grade based on CPI index teeth was recorded using Miller’s classification (i.e., 0 = normal mobility; grade 1 = slightly [<0.2 mm horizontal movement]; grade 2 = moderately [1–2 mm horizontal movement]; grade 3 = severe mobility [> 2 mm horizontal or any vertical movement]) [23].

Statistical analysis

Because GOHAI scores were non-normally distributed, we used nonparametric tests for all analyses. For comparisons between our participants and comparisons with Japanese national standard scores by 10-year age groups, we used one-sample median tests. Simultaneously, we examined differences in GOHAI scores by age group using the Kruskal-Wallis test followed by multiple comparisons using the Mann–Whitney U test with Bonferroni correction. We also divided participants into three age groups (50, 50–69, and ≥ 70 years) for further factor analyses. First, we compared GOHAI according to participants’ characteristics obtained by questionnaire and clinical examination, using the Mann–Whitney U test to compare two groups, and the Kruskal-Wallis test to compare three or more groups. When the Kruskal-Wallis test revealed significant differences, we conducted multiple comparisons using the Mann–Whitney U test with Bonferroni correction. Next, we divided GOHAI scores into three ranges using 25th (48.7 points) and 50th (55 points)

percentiles of the national standard score, which was determined using data on 3,283 subjects from 26 dental facilities located in widely different areas of Japan in 2006 [3, 4, 24]. Therefore, we identified participants with GOHAI scores ranging from 49 to 54 as individuals with poor OHRQoL and those with GOHAI scores of 48 or less with very poor OHRQoL. Against the reference group (GOHAI \geq 55), we assessed measurement risks by multinomial logistic regression models, and those independent variables were adjusted for each variables. In the multiple models based on single correlation analyses, “interruption of dental treatment” and “CPI code” were recategorized as the binary variables “receiving dental treatments before disaster (0 = no; 1 = yes)” and “CPI code 4 (0 = no, yes = 1).” Two-sided *p*-values less than 0.05 were considered statistically significant. All statistical analyses were conducted using the software program SPSS version 19.0 for Windows (IBM).

Results

GOHAI score distribution

Table 1 shows numbers of subjects by age and sex. In this study, subjects represented 17.3 % of the total population. The sex ratio (male/female) of participants was 0.62, which was significantly lower than the sex ratio of 0.82 in the total population ($p < 0.01$ by Chi-squared test). Table 2 summarizes GOHAI-score distributions by 10-year age groups compared with the national standard in Japan. The Kruskal-Wallis test revealed a significant difference in average rank of GOHAI score by subject’s age group. The lowest score was in the 50–59-age group and the next lowest score was in the 60–69-age group. Post hoc multiple comparisons using the Mann–Whitney *U* test with Bonferroni correction showed that these two groups

exhibited significantly lower scores than the other age groups. Those groups as well as the 40–49-age group showed a significantly lower median score than the national standard. In contrast, the median of the 70–79-age group was significantly higher than the national standard. We conducted the following factor analysis in the respective age groups divided as follows: < 50 years, 50–69 years, and \geq 70 years. Figure 1 presents histograms of GOHAI-score distributions by the three age groups, and every non-normal GOHAI distribution was confirmed by one-sample Kolmogorov-Smirnov tests (all $p < 0.001$).

Bivariate relationships of GOHAI scores with measurements

Relationship between GOHAI score and sex, age and self-reported data

There were significant differences in GOHAI score by all assessed items (Table 3). Subsequent multiple comparisons were carried out for “age,” “interruption of dental treatment,” “lost or fractured dentures,” and “self-rated systemic health.” As a result, the 50–69-age group was found to have significantly lower GOHAI score than the other two groups. Among the three response groups for “interruption of dental treatment,” respondents of “no dental treatment was being received before the disaster” had significantly higher GOHAI scores than the other two groups, whereas we found no difference between respondents of “treatment was not interrupted” and “treatment was interrupted and has resumed at the original dental clinic.” For “lost or fractured dentures,” those who responded “yes” had significantly lower GOHAI scores than the other groups. As for “self-rated systemic health,” those whose self-rating was “good” had significantly higher GOHAI scores than the other two groups. In addition,

Table 1 Numbers of subjects by age and sex

		Age group (in years)							Total
		18–29	30–39	40–49	50–59	60–69	70–79	\geq 80	
Men	No. of subjects	21	47	66	97	245	235	53	764
	Population	628	689	792	1,019	1,118	798	366	5,410
	Percent	3.3	6.8	8.3	9.5	21.9	29.4	14.5	14.1
	Mean age \pm SD	24.5 \pm 4.2	35.2 \pm 2.7	44.2 \pm 2.7	55.1 \pm 2.8	64.9 \pm 2.7	73.9 \pm 2.8	82.2 \pm 2.0	62.9 \pm 14.1
Women	No. of subjects	37	100	132	195	405	277	77	1,223
	Population	635	603	812	953	1,176	1,131	777	6,087
	Percent	5.8	16.6	16.3	20.5	34.4	24.5	9.9	20.1
	Mean age \pm SD	24.9 \pm 3.2	34.4 \pm 2.8	44.6 \pm 3.8	55.1 \pm 2.8	64.3 \pm 2.9	73.8 \pm 2.6	82.6 \pm 2.7	60.4 \pm 14.5
Total	No. of subjects	58	147	198	292	650	512	130	1,987
	Population	1,263	1,292	1,604	1,972	2,294	1,929	1,143	11,497 ^a
	Percent	4.6	11.4	12.3	14.8	28.3	26.5	11.4	17.3
	Mean age \pm SD	24.6 \pm 3.7	34.7 \pm 2.8	44.4 \pm 3.4	55.1 \pm 2.8	64.5 \pm 2.9	73.8 \pm 2.7	82.4 \pm 2.4	61.3 \pm 14.4

^aDefinite number in October, 2011 (source: government of Otsuchi), which is slightly different from the provisional number (11,411) used for distribution of notices of our survey

Table 2 Distribution of GOHAI score by age

	Age group (in years)							Total (N = 1987)
	18–29	30–39	40–49	50–59	60–69	70–79	≥ 80	
Range	25–60	33–60	12–60	12–60	18–60	16–60	28–60	12–60
	34–60	34–60	30–60	25–60	31–60	25–60	N. A.	25–60
Mean ± SD	54.7 ± 7.1	53.8 ± 6.9	52.1 ± 7.9	50.2 ± 9.2 ^a	51.4 ± 8.6 ^b	52.8 ± 7.8	52.7 ± 8.4	52.0 ± 8.3
	53.3 ± 6.5	54.3 ± 6.5	53.7 ± 6.8	52.2 ± 7.8	52.6 ± 7.2	50.8 ± 8.8	N. A.	53.1 ± 7.0
Median	58.0	56.0	54.0 ^c	52.0 ^c	53.0 ^c	55.0 ^d	56.0	54.0 ^c
	55.0	55.5	55.7	54.2	54.2	52.8	N.A.	55.0
25 th percentile	50.8	50.0	47.8	46.0	46.0	48.0	47.8	47.0
	49.5	51.0	50.4	46.5	47.0	45.3	N. A.	48.7
75 th percentile	60.0	60.0	58.0	59.0	59.0	60.0	60.0	60.0
	59.1	59.9	59.5	59.0	59.0	58.8	N. A.	59.3

Note. Upper values show survey results and lower values represent the 2006 national standard in Japan

NA Not applicable because the study for the 2006 national standard did not target this age class

^aSignificantly lower than 20s ($p = 0.002$), 30s, 70s, and 80s (all $p < 0.001$) by multiple comparisons following Kruskal-Wallis test between age groups

^bSignificantly lower than 20s ($p = 0.029$) by multiple comparisons following Kruskal-Wallis test between age groups

^cSignificantly lower median than national standard ($p < 0.001$)

^dSignificantly lower median than national standard ($p = 0.016$)

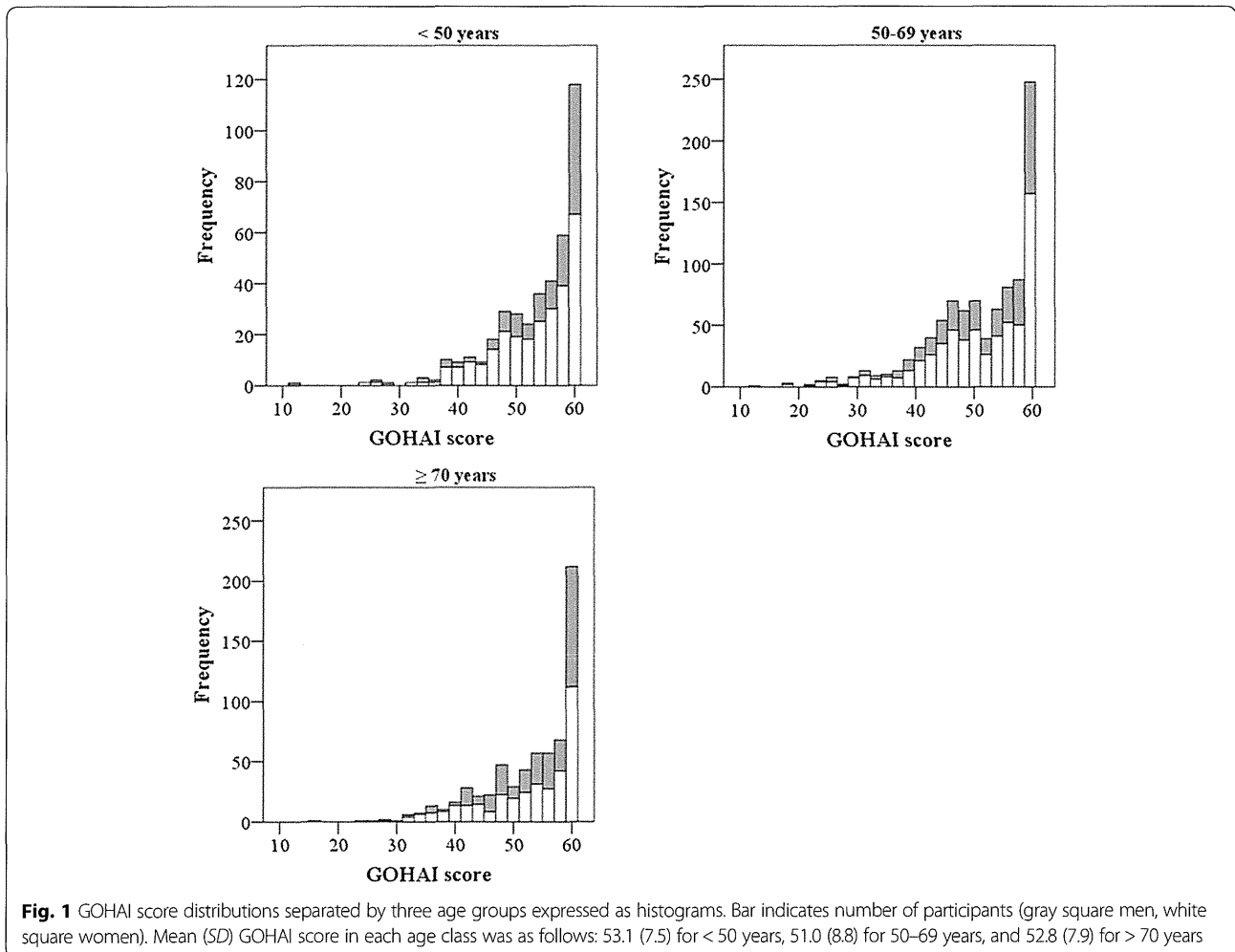


Table 3 Difference in GOHAI score by sex, age, and disaster-related experiences

	No. subject	Mean \pm SD	p-value
Sex			
Men	764	52.5 \pm 8.2	0.04
Women	1,223	51.7 \pm 8.3	
Age (in years)			
< 50 years	403	53.1 \pm 7.5	< 0.01
50–69 years	942	51.0 \pm 8.8	
\geq 70 years	642	52.8 \pm 7.9	
Evacuation from home			
No	687	52.6 \pm 7.9	0.02
Yes	1,300	51.7 \pm 8.8	
Interruption of dental treatment			
Not receiving	1,619	52.7 \pm 7.8	< 0.01
Not interrupted	37	48.7 \pm 8.8	
Interrupted	317	49.0 \pm 9.6	
Lost or fractured dentures			
Do not wear dentures	815	52.5 \pm 8.2	< 0.01
No damage	985	52.2 \pm 8.2	
Yes	172	48.8 \pm 8.9	
Self-rated systemic health			
Good	198	56.2 \pm 5.8	< 0.01
Fair	1,463	52.3 \pm 7.9	
Poor/very poor	322	48.0 \pm 9.9	
SPD			
No (K6 score < 13)	1,311	53.5 \pm 7.2	< 0.01
Yes (K6 score \geq 13)	640	49.1 \pm 9.6	
Economic status			
Fair	973	52.7 \pm 5.8	< 0.01
Severe	1,014	51.4 \pm 7.9	

those whose self-rating was “fair” had higher GOHAI scores than those whose self-rating was “poor.”

Relationship between GOHAI scores and current oral conditions

We also found significant differences in all measurements of assessed oral health conditions (Table 4). In subsequent multiple comparisons, subjects with 1–19 teeth had significantly lower GOHAI scores than other subjects, whereas we found no difference between edentulous subjects and subjects with 20 or more teeth. GOHAI scores of subjects with CPI code 4 were significantly lower than those of subjects with CPI code 0–2 and subjects with no index teeth. Furthermore, subjects with moving teeth at grade 2 or 3 had significantly lower GOHAI scores than the other subjects.

Table 4 Difference in GOHAI score for objectively assessed oral conditions

	No. of subjects	Mean \pm SD	p-value
Number of present teeth			
Edentulous	352	52.9 \pm 8.0	< 0.01
1–19	658	50.2 \pm 9.1	
20 or more	977	52.9 \pm 7.6	
Having one or more decayed teeth			
No	1,259	52.7 \pm 7.8	< 0.01
Yes	728	50.9 \pm 9.0	
CPI code			
No index teeth	447	52.4 \pm 8.2	0.01
0–2	818	52.4 \pm 7.9	
3	517	51.7 \pm 8.5	
4	205	50.3 \pm 8.3	
Tooth-mobility grade			
No index teeth	447	52.4 \pm 8.2	< 0.01
0–1	1,374	52.2 \pm 8.3	
2 or 3	167	49.3 \pm 8.6	

Multinomial logistic regression of OHRQoL

Multinomial logistic regression analyses were performed for 1,964 subjects without any missing values. In the discrimination models for OHRQoL levels, “sex,” “evacuation from home,” “economic status,” and “CPI code 4,” we found no significant adjusted odds ratio (AOR) for both poor and very poor OHRQoL status. As Table 5 shows, variables significantly related to both very poor and poor OHRQoL status, respectively, were “receiving dental treatments before disaster” (AOR, 2.13; 95 % confidence interval (CI), 1.59–2.85 and AOR, 1.44; 95 % CI, 1.04–1.99); “lost or fractured dentures” (AOR, 2.32; 95 % CI, 1.54–3.50 and AOR, 1.99; 95 % CI, 1.27–3.14); “self-rated systemic-health” (AOR, 6.15; 95 % CI, 3.58–10.6 and AOR, 2.46; 95 % CI: 1.45–4.17 for “poor/very poor,” and AOR, 3.03; 95 % CI, 1.88–4.87 and AOR, 1.97; 95 % CI: 1.29–3.00 for “fair” vs. “good”); and “having one or more decayed teeth” (AOR, 1.54; 95 % CI, 1.20–1.97 and AOR, 1.36; 95 % CI: 1.04–1.77).

Variables exclusively associated with very poor OHRQoL status were SPD (K6 \geq 13) (AOR, 2.32; 95 % CI, 1.82–2.95), “number of present teeth” (AOR, 1.91; 95 % CI, 1.44–2.53 for “1–19” and AOR, 1.75; 95 % CI, 1.19–2.55 for “edentulous” vs. “20 or more”), and “having one or more moving teeth at grade 2 or 3” (AOR, 7.73; 95 % CI, 1.14–2.64).

Discussion

This is the first study to adapt the GOHAI to survivors of a huge disaster. We found that GOHAI score was significantly lower in all participants compared with the median national standard score. By 10-year age group,

Table 5 Multinomial logistic regression of OHRQoL

	OHRQoL						Reference No. (GOHAI \geq 55)
	Very poor (GOHAI \leq 48)			Poor (49 \leq GOHAI < 55)			
	<i>n</i>	COR (95 % CI) <i>p</i> -value	AOR (95 % CI) <i>p</i> -value	<i>n</i>	COR (95 % CI) <i>p</i> -value	AOR (95 % CI) <i>p</i> -value	
Sex							
Women	377	1.08 (0.99–1.49) 0.09	1.11 (0.40–1.40) 0.40	262	1.08 (0.99–1.18) 0.12	1.21 (0.94–1.56) 0.13	392
Men ^a	215			148			570
Age (in years)							
\geq 70	174	1.06 (0.95–1.19) 0.32	1.27 (0.86–1.87) 0.23	129	0.99 (0.88–1.13) 0.94	1.27 (0.68–1.50) 0.31	334
50–69	322	1.18 (1.09–1.27) < 0.01	1.68 (1.28–2.20) < 0.01	196	1.07 (0.97–1.17) 0.22	1.24 (0.93–1.66) 0.06	411
< 50	96			85			217
Evacuation from home							
Yes	200	1.05 (0.97–1.13) 0.25	1.02 (0.81–1.30) 0.86	128	0.85 (0.72–1.00) 0.06	0.83 (0.64–1.08) 0.16	353
No	392			282			609
Receiving dental treatments before disaster							
Yes	442	1.98 (1.60–2.46) < 0.01	2.13 (1.59–2.85) < 0.01	322	1.49 (1.15–1.93) < 0.01	1.44 (1.04–1.99) 0.03	839
No	150			78			123
Lost or fractured dentures							
Yes	79	2.57 (1.83–3.60) < 0.01	2.32 (1.54–3.50) < 0.01	41	1.92 (1.29–2.86) < 0.01	1.99 (1.27–3.14) < 0.01	50
No	513			369			912
Self-rated systemic health							
Poor/very poor	152	2.05 (1.75–2.39) < 0.01	6.15 (3.58–10.6) < 0.01	62	1.59 (1.30–1.95) < 0.01	2.46 (1.45–4.17) < 0.01	104
Fair	415	1.13 (1.09–1.18) < 0.01	3.03 (1.88–4.87) < 0.01	318	1.09 (1.05–3.00) < 0.01	1.97 (1.29–3.00) < 0.01	715
Good	23			30			141

Table 5 Multinomial logistic regression of OHRQoL (Continued)

SPD (K6 ≥ 13)							
Yes	274	1.97 (1.71–2.27)	2.32 (1.82–2.95)	126	1.30 (1.09–1.57)	1.28 (0.97–1.68)	228
		< 0.01	< 0.01		< 0.01	0.08	
No	304			276			720
Economic status							
Severe	325	1.13 (1.03–1.25)	1.17 (0.93–1.46)	198	1.07 (0.95–1.20)	0.90 (0.88–1.42)	496
		0.01	0.19		0.27	0.37	
Normal	267			212			466
Number of present teeth							
Edentulous	94	1.04 (0.84–1.28)	1.75 (1.19–2.55)	66	0.88 (0.69–1.12)	1.03 (0.69–1.54)	188
		0.74	< 0.01		0.28	0.88	
1–19	255	1.51 (1.32–1.71)	1.91 (1.44–2.53)	130	1.11 (0.94–1.32)	1.08 (0.80–1.46)	263
		< 0.01	< 0.01		0.22	0.62	
20 or more	243			214			511
Having one or more decayed teeth							
Yes	343	1.30 (1.14–1.80)	1.54 (1.20–1.97)	251	1.20 (1.03–1.39)	1.36 (1.04–1.77)	650
		< 0.01	< 0.01		0.03	0.02	
No	249			159			312
CPI code 4							
Yes	78	1.58 (1.18–2.13)	1.43 (0.97–2.11)	44	1.29 (0.91–1.83)	1.35 (0.89–2.07)	80
		< 0.01	0.08		0.18	0.16	
No	514			366			882
Having one or more moving teeth at grade 2 or 3							
Yes	79	2.21 (1.60–3.06)	1.73 (1.14–2.64)	27	1.09 (0.70–1.70)	0.89 (0.53–1.49)	58
		< 0.01	0.01		0.71	0.66	
No	513			383			904

Note. COR crude odds ratio, AOR adjusted odds ratio, CI confidence interval

^aThe last row shows the reference category for each explanatory variable

GOHAI scores were significantly lower in the 40–49-, 50–59- and 60–69-age groups in this study compared with the national standard scores. Furthermore, GOHAI scores were significantly lower in the 50–59- and 60–69-age groups than in the other 10-year age groups in this study (Table 2). After dividing participants into three age groups, GOHAI score was found to be significantly lower in the 50–69 age group than in the other age groups by bivariate and multivariate analyses (Tables 3 and 5). Some earlier studies using the GOHAI Japanese version, as in the present study, have reported no remarkable age-related differences in scores [3–5]. Hence, the lower GOHAI score of disaster survivors particularly among the upper-middle age group, might be characteristic of victims from a disaster area. As one of the reasons, we speculate that these participants, as the head of their family, were forced to spend most of their time doing extraordinary things to survive after the disaster. Consequently, they could not take care of their own oral health.

For multinomial logistic regression of the GOHAI, we used 25th and 50th percentiles of the national standard as cutoff values. Previous studies have used several cutoff points for discrimination of low GOHAI groups. To assess dental care needs in ordinary times, relatively high cutoff points were previously used (54 to 58 points) [5, 8, 25], whereas researchers who attempted to identify subjects with high dental needs or to survey diabetes patients used low 25th percentile scores (40 or 44 points) as cutoff values [7, 26]. To identify residents with both very poor and poor OHRQoL status, we used two cutoff values, those at the 25th and 50th percentiles of the national standard, respectively. As a result, no measurement was exclusively related to a poor level of OHRQoL. On the contrary, “age,” SPD, “number of present teeth,” and “having one or more missing teeth at grade 2 or 3” exclusively showed a significant AOR versus the very poor OHRQoL level (Table 5). These findings suggest that the 25th percentile we used is a suitable cutoff value to survey OHRQoL of residents in a disaster victim area.

Results of the questionnaire survey indicated that disaster-related experiences concerning oral health problems such as “receiving dental treatments before disaster” and “lost or fractured dentures” degraded OHRQoL levels. Both relationships with OHRQoL were naturally expected because the subjects who had received dental treatment before the disaster or who were deprived of their dentures had high dental needs, especially under conditions of scarce dental resources. Although our survey was carried out 9 months after the disaster, 70 % of participants with lost or fractured dentures had already had them restored or repaired primarily by temporary dental care services set up for tsunami victims. However, their GOHAI scores did not differ from those participants

whose dentures were not restored or repaired (data not shown). Removable dentures usually require periodic adjustments. Kivovics et al. reported that 87 % of complete new dentures required at least one adjustment [27]. In addition, Veyryne et al. showed that GOHAI scores of subjects who received new prostheses showed improvement after 12 weeks even in ordinary times [28]. Thus, scarce dental resources after a disaster can limit adequate adjustments after denture re-restoration or repair and continue to suppress OHRQoL levels in disaster areas. The need for continuous dental care support was suggested by our results showing no difference in GOHAI scores between those whose dental treatments were interrupted and those whose treatments were not interrupted (Table 3), which also indicates insufficient post-disaster dental care. Thus, continuous dental care appears to be needed for people in disaster areas.

The objectively assessed oral conditions found to be related to a very low GOHAI score were “number of present teeth” and “having one or more decayed teeth,” which agreed with several previous studies [1–6, 29]. Although the relationship between tooth mobility and OHRQoL has been rarely reported, Ng and Leung reported the relationship between self-reports of “having drifting teeth” and OHRQoL measured by the Oral Health Impact Profile (OHIP-14) [30, 31]. The OHIP-14 mean score, where a high score indicates low OHRQoL, was remarkably higher in subjects who reported “having drifting teeth” than those who did not, although the difference was not significant. People are naturally expected to easily perceive tooth mobility as an oral health problem. In contrast, “CPI code 4” did not show a significant AOR with very poor OHRQoL levels, although a significant crude odds ratio was observed (Table 5). A tooth recorded as CPI code 4 would be likely to show a high grade of mobility, which might have confounded the two measures. In addition, as Zaitzu et al. previously indicated [5], CPI criteria consisting of bleeding on probing, dental calculus, and periodontal pockets might be difficult for the general public to recognize. Thus, tooth mobility might be a more sensitive measure to assess OHRQoL than the examination using CPI.

Multinomial analyses showed that “self-rated systemic health” and SPD was significantly related with very poor OHRQoL among measures other than oral-related issues. It is interesting that OHRQoL levels were associated with health domains more strongly than socioeconomic aspects such as “evacuation from home” and “economic status.” Relationship of OHRQoL with “self-rated systemic health” as well as “socioeconomic status” has been reported [3, 5, 6, 8] in ordinary situations. Whereas the association between oral health status and psychological problems was unclear, a few studies have suggested the relationship [21, 32, 33].

However, our results clearly indicate that a relationship exists. The experience of disaster followed by substandard living conditions might lead to various levels of impact according to survivors' mental and physical properties. Compared with physical and mental problems, social problems would not be a concern because many victims lived together under similar circumstances no matter how terrible it was. Hence, we supposed that the great impact of a disaster on both mental and physical health, including oral health, accounted for the clearly observed relationship between mental and oral health status.

This study had several limitations. First, our participants were not probability samples because they voluntarily participated in systemic-health check-up services conducted by the town government. Furthermore, the proportion of young and male participants was relatively low because such survivors who had some form of employment at the time were probably unable to join our study. Nevertheless, we believe our participants represented all residents to a noteworthy degree because their number exceeded the required numbers with 95 % confidence and a 5 % margin of error for both men and women (764 vs. 359 for men, and 1,223 vs. 361 for women). Second, oral examinations were performed by multiple examiners under trying conditions at facilities in the disaster area. This might result in greater interobserver variability than under ordinary conditions. Third, being a cross-sectional study, it necessarily lacked data from the affected region before the disaster, although we expect to provide supplemental data in a follow-up study. Finally, whether our findings are specific to a disaster area or not remains unclear given the lack of comparison data for nondisaster situations. However, we consider our results valuable for identifying relative post-disaster risks of oral health because we mainly analyzed internal correlates in a group of survivors.

Conclusion

OHRQoL of survivors living in a victim area was lower than the national standard, especially in the 50–69-age group. Their OHRQoL was reduced by objectively worse oral condition and negatively perceived systemic health condition, which were also observed in ordinary times. In addition to these factors, disaster-related oral problems, such as being deprived of dentures and dental treatment that had existed before the disaster, remarkably degraded their OHRQoL levels. Furthermore, SPD was also associated with OHRQoL, which suggests that disaster experiences have a great negative impact on both oral and mental health conditions. Our study strongly indicates that continuous dental care support as well as mental health care is needed for survivors of a huge disaster.

Abbreviations

OHRQoL: Oral Health-Related Quality of Life; GOHAI: General Oral Health Assessment Index; CPI: Community Periodontal Index; SD: Standard deviation; CI: Confidence interval; COR: Crude odds ratio; AOR: Adjusted odds ratio; OHIP: Oral Health Impact Profile; SPD: Serious psychological distress.

Competing interests

The authors declare that they have no competing interests.

Authors' contributions

MK administered this study, contributed to data analysis, and wrote the manuscript. MM, AA, and KM contributed to data acquisition. FA contributed to data acquisition and data analysis. YY contributed to data acquisition and coordination of the study area. RS contributed to coordination of the study area. HM, KS, and AO planned and supervised this study. All authors read and approved the final manuscript.

Acknowledgements

This study was supported by a Grant-in-Aid from the Ministry of Health, Labor and Welfare, and Health and Labor Sciences Research Grants, Japan (H23-Tokubetsu-Shitei-002). The funding body had no role in the study design, collection, analysis, and interpretation of data; writing of the manuscript; or in the decision to submit the manuscript for publication. We sincerely thank all of the staff in the town of Otsuchi for their support. We also thank Dr. Yuki Yonekura for useful advice.

Author details

¹Division of Preventive Dentistry, Department of Oral Medicine, School of Dentistry Iwate Medical University, 1-3-27 Chuo-dori, Morioka, Iwate 020-8505, Japan. ²Department of Social Welfare, Nihon Fukushi University, Okuda, Mihama Town, Aichi 470-3295, Japan. ³Faculty of Community Nursing, Iwate College of Nursing 14-1 Sengakubo, Ogama, Takizawa, Iwate 020-0751, Japan. ⁴Division of Orthodontics, Department of Developmental Oral Health Science, School of Dentistry Iwate Medical University, 1-3-27 Chuo-dori, Morioka, Iwate 020-8505, Japan. ⁵Department of Hygiene and Preventive Medicine, School of Medicine Iwate Medical University, 2-1-1 Nishitokuta, Yahaba, Iwate 028-3694, Japan. ⁶Iwate Medical University, 19-1 Uchimarui, Morioka, Iwate 020-8505, Japan.

Received: 20 February 2015 Accepted: 3 September 2015

Published online: 15 September 2015

References

- Nohara M. Impact of the Great East Japan Earthquake and tsunami on health, medical care and public health systems in Iwate Prefecture, Japan, 2011. *Western Pac Surveill Response J.* 2012;23:24–30.
- Hosokawa R, Taura K, Ito E, Koseki T. Roles of dentists and dental hygienists in two major earthquakes. *Int Dent J.* 2012;62:315–9.
- Naito M, Suzukamo Y, Nakayama T, Hamajima N, Fukuhara S. Linguistic adaptation and validation of the General Oral Health Assessment Index (GOHAI) in an elderly Japanese population. *J Public Health Dent.* 2006;66:273–5.
- Naito M, Suzukamo Y, Nakayama T, Fukuhara S. Preliminary study on the development of an oral health-related QOL scale: production of a Japanese version of the General Oral Health Assessment Index (GOHAI). *J Dent Health.* 2004;54:110–4 (in Japanese).
- Zaito T, Ueno M, Shinada K, Ohara S, Wright FA, Kawaguchi Y. Association of clinical oral health status with self-rated oral health and GOHAI in Japanese adults. *Community Dent Health.* 2011;28:297–300.
- Tubert-Jeannin S, Riordan PJ, Morel-Papernot A, Porcheray S, Saby-Collet S. Validation of an oral health quality of life index (GOHAI) in France. *Community Dent Oral Epidemiol.* 2003;31:275–84.
- El Osta N, Tubert-Jeannin S, Hennequin M, Bou Abboud Naaman N, El Osta L, Geahchan N. Comparison of the OHIP-14 and GOHAI as measures of oral health among elderly in Lebanon. *Health Qual Life Outcomes.* 2012;30:131.
- Fuentes-García A, Lera L, Sánchez H, Albala C. Oral health-related quality of life of older people from three South American cities. *Gerodontology.* 2013;30:67–75.
- Yokoyama Y, Otsuka K, Kawakami N, Kobayashi S, Ogawa A, Tanno K, et al. Mental health and related factors after the Great East Japan Earthquake and Tsunami. *PLoS One.* 2014;24(9):e102497.

10. Liu D, Hu D, Li X, Ma H. Periodontitis in 65-74-year-old victims in Wenchuan, China postearthquake: implications for service provision. *Int Dent J*. 2010;60:161–8.
11. Karim A, Wager B, Khan AA. Caries prevalence in Chikar, Kashmir, post-earthquake: implications for service provision. *Int Dent J*. 2009;59:19–25.
12. Sato Y, Aida J, Takeuchi K, Ito K, Koyama S, Kakizaki M, et al. Impact of loss of removable dentures on oral health after the Great East Japan Earthquake: a retrospective cohort study. *J Prosthodont*. 2015;24:32–6.
13. Atchison KA, Dolan TA. Development of the Geriatric Oral Health Assessment Index. *J Dent Educ*. 1990;54:680–7.
14. Atchison KA, Der-Martirosian C, Gift HC. Components of self-reported oral health and general health in racial and ethnic groups. *J Public Health Dent*. 1998;58:301–8.
15. Kessler RC, Andrews G, Colpe LJ, Hiripi E, Mroczek DK, Normand SL, et al. Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychol Med*. 2002;32:959–76.
16. Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, et al. The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *Int J Methods Psychiatr Res*. 2008;17:152–8.
17. Sakurai K, Nishi A, Kondo K, Yanagida K, Kawakami N. Screening performance of K6/K10 and other screening instruments for mood and anxiety disorders in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2011;65:434–41.
18. Kessler RC, Barker PR, Colpe LJ, Epstein JF, Gfroerer JC, et al. Screening for serious mental illness in the general population. *Arch Gen Psychiatry*. 2003;60:184–9.
19. Drapeau A, Marchand A, Forest C. Gender differences in the age-cohort distribution of psychological distress in Canadian adults: findings from a national longitudinal survey. *BMC Psychology*. 2014;2:25.
20. Suzuki T, Miyaki K, Sasaki Y, Song Y, Tsutsumi A, Kawakami N, et al. Optimal cutoff values of WHO-HPQ presenteeism scores by ROC analysis for preventing mental sickness absence in Japanese prospective cohort. *PLoS One*. 2014;23:9.
21. Xiang X, Lee W, Kang SW. Serious psychological distress as a barrier to dental care in community-dwelling adults in the United States. *J Public Health Dent*. 2015;75:134–41.
22. World Health Organization. Oral health surveys: basic methods. 4th ed. Geneva: World Health Organization; 1997.
23. Laster L, Laudenbach KW, Stoller NH. An evaluation of clinical tooth mobility measurements. *J Periodontol*. 1975;46:603–7.
24. Naito T. Assessment of Oral Health Related QOL—Significance and Summary of Baseline Survey. *J Health care Dent*. 2006;8:81–60 (in Japanese).
25. Zuluaga DJ, Montoya JA, Contreras CI, Herrera RR. Association between oral health, cognitive impairment and oral health-related quality of life. *Gerodontology*. 2012;29:e667–73.
26. Nikbin A, Bayani M, Jenabian N, Khafri S, Motallebnejad M. Oral health-related quality of life in diabetic patients: comparison of the Persian version of Geriatric Oral Health Assessment Index and Oral Health Impact Profile: A descriptive-analytic study. *J Diabetes Metab Disord*. 2014;13(1):32.
27. Kivovics P, Jahn M, Borbély J, Márton K. Frequency and location of traumatic ulcerations following placement of complete dentures. *Int J Prosthodont*. 2007;20:397–401.
28. Veyrune JL, Tubert-Jeannin S, Dutheil C, Riordan PJ. Impact of new prostheses on the oral health related quality of life of edentulous patients. *Gerodontology*. 2005;22:3–9.
29. Gerritsen AE, Allen PF, Witter DJ, Bronkhorst EM, Creugers NH. Tooth loss and oral health-related quality of life: a systematic review and meta-analysis. *Health Qual Life Outcomes*. 2010;5:126.
30. Ng SK, Leung WK. Oral health-related quality of life and periodontal status. *Community Dent Oral Epidemiol*. 2006;34:114–22.
31. Slade GD. Derivation and validation of a short form of the oral health impact profile. *Community Dent Oral Epidemiol*. 1997;25:284–90.
32. Amarasena N, Kapellas K, Brown A, Skilton MR, Maple-Brown LJ, Bartold MP, et al. Psychological distress and self-rated oral health among a convenience sample of Indigenous Australians. *J Public Health Dent*. 2015;75:126–33.
33. Sánchez-García S, Heredia-Ponce E, Juárez-Cedillo T, Gallegos-Carrillo K, Espinel-Bermúdez C, de la Fuente-Hernández J, et al. Psychometric properties of the General Oral Health Assessment Index (GOHA) and dental status of an elderly Mexican population. *J Public Health Dent*. 2010;70:300–7.

Submit your next manuscript to BioMed Central and take full advantage of:

- Convenient online submission
- Thorough peer review
- No space constraints or color figure charges
- Immediate publication on acceptance
- Inclusion in PubMed, CAS, Scopus and Google Scholar
- Research which is freely available for redistribution

Submit your manuscript at
www.biomedcentral.com/submit



IV. 資料

1. 東日本大震災被災者健康調査 調査票

- ・平成 27 年度 調査票
- ・追加調査票（65 歳以上用）
- ・大槌町歯科問診票
- ・紫波町調査『健康と暮らしに関する調査』調査票
- ・未受診者調査票

※事務局記載欄

平成27年度 東日本大震災健康調査票

この調査は、大槌町と岩手医科大学が協力して東日本大震災の健康影響を明らかにし、必要な方に支援を行うために実施するものです。この調査票は1993年（平成5年）4月1日以前に生まれた方が対象になります。健診の日には、この用紙にお答えを記入して持参して下さい。（答えにくい質問は、当日、係の者がお手伝いします）

【1】お名前・性別・生年月日・お住まいについて教えてください。

	姓	名	
(フリガナ)			
お名前			性別： 男 ・ 女

生年月日を教えてください。

明治 ・ 大正 ・ 昭和 ・ 平成 年 月 日

いま生活している場所の住所を教えてください。

〒

岩手県大槌町

あなたは現在、あなたを含めて何人暮らしをしていますか。数字を記入してください。

人

【2】医療に関しておたずねします。

(1) 現在の健康状態はいかがですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. とても良い 2. まあ良い 3. あまり良くない 4. 良くない

(2) 現在、次のような病気で治療（服薬や点滴など）を受けていますか。
当てはまるものすべてに○を付けてください。

1. 脳卒中 2. 高血圧 3. 心筋梗塞・狭心症
4. 肺の病気（喘息、肺気腫、COPD） 5. 腎臓の病気
6. 肝臓の病気 7. 糖尿病 8. がん
9. 高脂血症（コレステロール・中性脂肪が高い） 10. うつ
11. 不眠 12. その他（ ） 13. 何れも該当なし

【3】食事についておたずねします。

(1) 最近の1日の食事の回数について教えてください。（間食は除きます） 1日に（ ）回

(2) ここ数日を振り返って、次の食品を1日あたりどのくらい食べましたか。
それぞれ当てはまるもの1つに○を付けてください。

	1日あたり				
1) ごはん、パン、麺など	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
2) 肉	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
3) 魚、貝など	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
4) 卵	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
5) 豆腐、納豆など	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
6) 野菜	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
7) くだもの	1回未満	1回	2回	3回	4回以上
8) 牛乳・ヨーグルト・チーズなど	1回未満	1回	2回	3回	4回以上

【4】タバコとお酒についておたずねします。

(1) タバコを吸っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

タバコを吸ったことがある方は、 に喫煙本数と期間を記入してください。

- 1. 吸わない
- 2. 吸っていたがやめた (歳から 歳まで、1日 本吸っていた)
- 3. 吸っている (歳から、1日 本くらい吸っている)

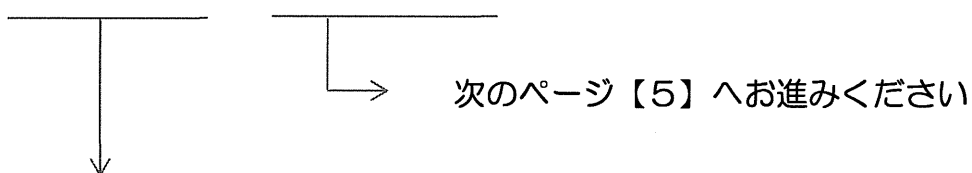
↓

吸っている方にお尋ねします。震災前より、1日に吸う本数は増えましたか？

- 1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. 震災前は吸っていなかった

(2) お酒を飲みますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 飲んでいる 2. 飲んでいない 3. 止めた



① 週に何回、飲みますか。数字を記入してください。 週に 回

② 1日に飲むお酒はどのくらいですか。日本酒におきかえてお答えください。

- 1. 1合未満 2. 1合前後 3. 2合前後 4. 3合以上

*各種アルコール換算表。うすめて飲むときはもとの量で計算してください。

焼酎1合は.....	日本酒 1. 5合	} にあたります。
ビール中びん(500ml)1本は ..	日本酒 1合	
ウイスキーダブル1杯は.....	日本酒 1合	
ワイン2杯は.....	日本酒 1合	

③ 飲んでいる方は、震災前に比較して飲酒量は増えていますか。

- 1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. 震災前は飲まなかったが、今は飲んでいる